

京都伝統文化の森推進協議会 平成 22 年度事業実績報告

京都伝統文化の森推進協議会は、本市で最も文化的価値の高い地域のひとつである東山における森づくりを通じて、京都に根付いた自然との共生を基本とする日本の文化を全国に発信することを目的に、東山風景林の有する文化的価値について、情報を整理し、ホームページやイベント等において伝達する、文化的価値発信事業に取り組むとともに、長期的な森林づくりの方向を議論し、具体的な森林整備を行う、森林整備・景観対策事業に取り組んだ。

協議会各種会合の開催

名 称		日 時	場 所	参 加 者
京都伝統文化の森推進協議会「役員会」		平成 22 年 7 月 2 日	ホテル ルビノ京都堀川	11 名
京都伝統文化の森推進協議会「総会」		平成 22 年 7 月 2 日	ホテル ルビノ京都堀川	34 名
京都伝統文化の森推進協議会 「森林整備・景観対策 専門委員会」	第 1 回	平成 22 年 6 月 11 日	職員会館かもがわ	14 名
	第 2 回	平成 23 年 2 月 28 日	職員会館かもがわ	11 名
京都伝統文化の森推進協議会 「文化的価値発信専門委員会」		平成 23 年 1 月 19 日	京都大学こころの 未来研究センター	12 名
京都伝統文化の森推進協議会 「市民連携検討班会議」	第 1 回	平成 22 年 6 月 25 日	京都市役所	6 名
	第 2 回	平成 23 年 2 月 14 日	職員会館かもがわ	7 名
京都伝統文化の森推進協議会 「林相改善計画技術指針検討班会議」		平成 23 年 2 月 3 日	京都市役所	9 名

文化的価値発信事業

- ・協議会ホームページの運営

(<http://www.kyoto-dentoubunkanomori.jp>)

- ・協議会の活動目的や内容を分かりやすく紹介したパンフレットの作成及び配布



・「水都おおさか森林の市 2010」への出展

日 時：平成 22 年 10 月 9 日（土）、10 日（日）

場 所：近畿中国森林管理局周辺（大阪市）

来場者：約 250 名

内 容：京都伝統文化の森推進協議会の概要及び活動内容紹介のパネルを展示，伝統文化の森推進協議会に関わるクイズを出題した。

・「COP10 生物多様性交流フェア」への出展

日 時：平成 22 年 10 月 23 日（土）～29 日（金）

場 所：愛知県名古屋市白鳥地区

来場者：約 2,000 名

内 容：京都市農林振興室との共催で，京都伝統文化の森推進協議会の概要及び活動内容紹介のパネル展示を行った。

・公開シンポジウム「京都の森は何をもたらしたか？～その『文化的価値』を考える～」の開催

日 時：平成 23 年 3 月 15 日（火）14 時～17 時

場 所：清水寺 大講堂「洗心洞」

参加者：約 65 名

内 容：本協議会文化的価値発信専門委員会委員による講演の後，「歴史」「文化」「芸術」等，様々な側面から京都の森についての議論を行った。

当日，東日本大震災の義援金を集めたところ，22,460 円の御寄附をいただいた。

森林整備・景観対策事業

・「ナラ枯れ緊急報告会」への後援

日 時：平成 22 年 10 月 11 日（月・祝）

場 所：京都府立大学 合同講義棟第 3 講義室

参加者：約 200 名

内 容：京都府立大学主催でナラ枯れ被害急増に伴い開催された，ナラ枯れのメカニズムや防除方法・被害の現状，被害を受けた森林の今後の変化と市民の関わりについての緊急報告会において，近畿中国森林管理局，京都府，京都市からそれぞれの立場でナラ枯れ被害の現状について報告を行った。報告の後，本協議会の二井一禎専門委員（京都大学大学院教授）から「ナラ枯れの原因と防除対策」と題して，高原光専門委員（京都府立大学大学院教授）から「森林景観の変化とナラ枯れの影響」と題して，そして黒田慶子専門委員（森林総合研究所関西支所地域研究監（現在 神戸大学大学院

教授))から「市民との関わり(里山整備の必要性和望ましい手法)」と題して講演が行われた。

・公開シンポジウム「森が育む生物多様性」への後援

日 時：平成 22 年 11 月 3 日(水・祝)

場 所：京都府立大学 合同講義棟第 3 講義室

参加者：約 80 名

内 容：生物多様性条約 COP10 記念学術交流事業として開催された公開シンポジウムにおいて、「京都三山の森の多様性」という内容で講演が行われた。本協議会からは、高原光専門委員(京都府立大学大学院教授)と高田研一専門委員(森林再生支援センター)が講演を行った。

・平成 22 年度東山風景林林相改善事業実施計画立案及び監理業務

委託先：計画立案及び監理 特定非営利活動法人森林再生支援センター 契約額 708,435 円
改善事業の実施 植彌加藤造園株式会社 契約額 2,562,000 円

内 容：東山風景林の林分 2 箇所において、景観と治山に配慮し実施。1 箇所はシイ林の林相改善を目的に高木・中木層のコジイおよび下層木の常緑樹を除伐し、伐採後、地域性苗木を植栽した(2,000 m²)。もう 1 箇所は伐期 300 年のヒノキ林を目指すため、ヒノキ本数率 30%程度の群状間伐を実施、伐採後、地域性苗木を植栽した(1,800 m²)。このヒノキ林の下層木除伐、整理については一般市民参加による「清水山山頂の景観改善に向けた森づくり」において実施した(平成 23 年 5 月 17 日)。

なお、業務の委託に際しては、契約額の妥当性を図るため、仕様書等により業務内容を明確にし、公共単価による設計委託額を算出した。特に、林相改善業務については、委託先選定の透明性を高めるため複数業者から見積を徴収した。

・平成 22 年度東山風景林林相改善事業モニタリング

委託先：京都大学

内 容：東山・高台寺山国有林ではシイの分布拡大が著しい。平成 16(2004)年以降、国有林では種多様性を回復し市民に親しまれる森林を再生するためにシイ林の部分的な伐採を行って、天然更新や一部植栽によって落葉広葉樹が混交した活力ある森林の造成をめざしてきた。この事業は、平成 19(2007)年以降は「京都伝統文化の森協議会」に引き継がれ、ヒノキの混交率が高い林分では形質の悪いヒノキ劣勢木を除間伐する作業も平行して実施されている。平成 22 年度のモニタリングでは、主にシイ林伐採後の更新木の発生状況、植栽木の成長について継続調査を行った。

文化的価値発信及び森林整備・景観対策合同事業

・「第 10 回 東山クリーン作戦」の実施

日 時：平成 22 年 10 月 24 日（日）

場 所：東山国有林（東山山頂公園周辺）

参加者：約 45 名

内 容：林野庁京都大阪森林管理事務所との共催で実施。東山山頂公園の北側の山中を中心に清掃活動を行った。

・「清水小学校森林学習」の実施

日 時：平成 22 年 10 月 26 日（火）、12 月 7 日（火）、12 月 10 日（金）

場 所：高台寺山国有林及び清水小学校

内 容：清水小学校 2 年生を対象に「シイの実を食べてみよう」（10/26）、「ウラジロのしめ縄を作ろう」（12/7）、3・4 年生を対象に「ナラ枯れの現状と東山について」（12/10）という内容で、本協議会の高桑進専門委員（京都女子大学教授）を講師に学習会を行った。

・「使って守ろう京都三山の森～ナラ枯れ木搬出薪割り大作戦！～」の実施

日 時：平成 22 年 12 月 14 日（火）～16 日（木）、18 日（土）

場 所：東山国有林（東山山頂公園周辺）

参加者：延べ 153 名

内 容：林野庁京都大阪森林管理事務所、京都市との共催、朝日新聞社京都総局の後援で実施。近年、京都三山でもナラ枯れ拡大が問題になっていることから、「市民力」を生かしてナラ枯れ問題に立ち向かおうという初めての試みで、事前に財団法人京都市森林文化協会の森林整備隊の協力により伐採・玉切りしてあったナラ枯れ被害木約 20 本を林内から薪割り場までバケツリレー方式で搬出し、薪を作る作業を行った。今回作った約 1,200 束の薪については、生木を薪にしたため、ナラ枯れの原因となっているカシノナガキクイムシの幼虫が孵化する 5 月末までに使い切ってもらえるように限定し配布した。